
執事服を脱がないでっ！ > <

にゃんこたろう

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

執事服を脱がないでっ！><

【Nコード】

N1262Q

【作者名】

にゃんこたろう

【あらすじ】

ごく普通の少女、識神しきがみ 虹空にぼは、とある特別な日をきっかけに、識神家のヒミツを知ることになる・・・！？

プロローグ(?) (前書き)

この作品は、ほとんどが妄想ですので、じゅーーーーーぶんに
注意ください。w

< (> w >) >

プロローグ(?)

プロローグ

とある町のだ真ん中。そこには織神家しきがみという大企業グループの豪邸がありました。が、一見、それはただのちよつと大きい家にしか見えませんでした。そしてそこに住む少女、織神しきがみ 虹空にぞらでさえも、自分を普通の現役高校生としか思っていないませんでした。

これは、この少女と、性悪アニキ兼執事と、優しい眼鏡お兄ちゃん兼執事の物語。

第一章えっ!?!お兄ちゃんじゃないの!?!

とある町のだ真ん中。そこにたたずむ一軒の家。そして、少女の絶叫。

「ぎゃあああああ!!遅刻うううううううううう!!!!
!!!」「うっせーな!まだ7・・・もがつ!?!」「こらこら。せつかくスツキリ目覚めるように時間ずらしたのに、バレたら寝ちゃうじゃないですか。」「てか永眠しろし。」「・・・素直じゃないですね。損しますよ?」「うっせー・・・ようつずら。」「うっせーらゆつなっ!バカアニキ!あ、龍登りゅうとうお兄ちゃんおはよう。」「はい。おはようございます。」「・・・チツ・・・」「おはよ・う!(怒)バ・・・」「せつかく最初の登場なんですから、名前で呼んであげましょうね。」「・・・おはよう虎太郎こたろうバ・カ・ア・ニ・キ!」「怒)」「へいへいはよー。」「ムカツ・・・」「まあまあ。おさえておさえて。それより、いま8時じゃないですよ?」「え」。」「あ・・・おきないお前が悪い。じごくじとく。」「はあ!?!」

怒)

えっ!?!お兄ちゃんじゃないの!?!No.2(前書き)

友達と〜じよ〜v

えっ!?!お兄ちゃんじゃないの!?!No.2

「・・・早く食べないと本当に遅刻しますよ?」「え、あ、うん。」
「その前に服着るようすら。」

「うすら言っないってるだろが!」「ごぞらさん、言葉遣いが悪いですよ。」「はい。ベーーーーっだあー!」「・・・(ム力)」「

私は二階の自分の部屋へと向かい、手際よく制服をきた。あ、紹介させていただくと、意地悪で小生意気なのが、虎太郎アニキ。そして、やさしくて完っつ壁な理想のお兄ちゃんの方が龍登お兄ちゃん。虎太郎アニキは16歳。龍登お兄ちゃんは20歳。そして私は・・・

「おーいうすらー。早くしねーとおめーの分なくなるぞおー。」「うすら言っなっ!！」

私はドタドタと階段を下りた。「二人とも若いですねー。」「お兄ちゃんだっ若いじゃん。」「えーと・・・中身の問題です。;」

「・・・?」「おめーには分かんねーよ。」「ムッ。」「何よそれ!」「そんなまんの意味だよバーカ。」「ゴッソ。」「いっつ!?!」「

いい加減にしなさい。仮にも兄ともあるうものが妹をいじめるんじやありません。^三^」「・・・わーったよ。」「・・・(でた・・・

・ブラック龍登・・・)」

龍登お兄ちゃんはたまに笑顔が黒くなる。こーいうときは、虎太郎もたじたじになる。いい気味だ。

「えーと・・・いただきます。」「はいどうぞ。」「今日の朝ごはんはベーコンエッグと、トーストと、サラダとコーンスープだった。

「うわあ・・・。」「・・・口に合いませんでしたか?」「い、いやっ!そうじゃなくてですねえ・・・その・・・あいかわらずおいしいそうだなあって・・・。」「。。。。」「。。。。」「。。。。」
「。。。。」

なぜか虎太郎アニキは、私と龍登お兄ちゃんが話していると機嫌

が悪い。「……なんで怒ってるのアニキ?」「ござらさん。「はい?」「……男の人には女の人にはわからない悩みつてものがあるんですよ。そつとおいてあげましょう。」「……?」「まあ、龍登お兄ちゃんがそういうのなら合っているのだろう。」「……そうするよ。」「私は残りのトーストを全部口に入れた。

「じゃあいつてきまゝす。」「ああ、いつてらっしやい。」「……」「……ぶう。がちゃ。

……虎太郎アニキは、毎回いつてらっしやいつて言ってくれたためしがない。せめて今日ぐらいはさあ……。」「……つてなんで虎太郎アニキのことを考えなきやいけないのよっ!あのクソアニキ!

!」「……おつはよ〜!!」「がばつ。」「うわあっ!?!」「ごっめ〜んおどろかしちゃつた?」「……うん、まあ。」「

彼女は白鳥 美羽。私の親友。

「……で?」「でつて?」「んもう〜とぼけないのっ!!今日お兄様方と何かあったでしょ!?!」

彼女は恋バナが大好き。そしてイケメンも大好き。……というわけで、私のお兄ちゃんたちに興味津々なのだ。

「……別に。」「ええ〜……つまんな〜い。」「……いいよ別にっ!何も期待してないしっ!」

「……はっは〜ん。」「何よ?」「さては……」「さては?」「ゴクリ。(汗)「これは……何もないと見せかけて、夜にイベントがおおるとかつ!!」「……はあ。」「これはアレだよ!」「実はオレ……お前と血が繋がってないんだ……。」「とか!」「プレゼントのかわりに私を……。」「とかっ!!キヤイキヤイツ!!」「……戻つてこ〜い……。」「あっ!!とにかくっ!お誕生日おめでとっ!

これからもよろしくねっ!!!!」「……うん!」「はいこれプレゼント〜!!!!」「うわあ……。」「カワイイデイベア〜!!!!」

そうなのです。今日は私の誕生日なのです。それなのに・・・
「あのクソアニキはあつ!!」「ええ〜カッコイイじゃん。」「
どこがつ!?!」「顔が。」「・・・。」

ああいいよそれは認めるさいケメンだしっ!?確かに顔はカッコイ
イでもね大切なのは中身なのよあなたそれ分かってる!?

「あの・・・顔で語らないで下さいなござらさん。」「」「ふう。ど
こがいいのよあんな顔だけ野郎。」

「いい?よく聞きなさい?ああいう性悪ほど・・・」そこで美羽ち
ゃんは息をすった。「実はかわいかったりするの!」「・・・はあ
?ないない。あんな怒りんぼう星人。」「いいっ!?世の中にはた
くさんのデレがあるの。メガネデレヤンデレ純デレ(純粋デレデレ)
・・・そのなかでも特に人気なのはなんだと思う!?!」「・・・さ
あ。」「ツンデレよっ!!一見ツンツンして小生意気だけど、ある
特定の用件を満たしていると・・・デレデレ!」「べっべっにお前のた
めなんかじゃないんだからなっ!!!」「/」「とか・・・きゃああ〜
く/」「/」「言われてみたいわああ/」「/」「/」「・・・。」
「ごめん虎太郎アニキ・・・(めっちゃ想像できるっ!!!...)」「思
い当たるふしがあるっしょ。」「・・・うん。」「と・・・か・か・く
!お兄ちゃんたちを大切にしなさいよ?あんなカッコイイお兄ちゃ
んたちなんていないんだからっ!!!」「うん・・・そうするよ。」「
私はまじめにそう思った。」

時は流れて・・・学校終わり。

「んじゃあがんばってね!」「・・・うん。」「

何をだよ!?!?っっていうツッコミはさておき。・・・すっく〜くドキ
ドキする。

ドキドキドキドキドキドキドキドキドキドキドキドキドキドキドキ
ドキドキドキドキドキドキドキドキドキドキドキドキドキドキ

「・・・ドキドキするだけで家についちゃったよ・・・」「私はかす
かな期待に胸をふくらませ、そのドアを開けた。がちゃ。そこには

「お帰りなさいませ、お嬢様。」執事がいた。

「……。」「……どうなさいました?」「……間違えました
く……。」がちゃ……。「!?」がちゃがちゃがちゃ。「もうしわ
けございません。逃がさないように鍵をかけさせていただきました。」

「……で。」「はい?」「なんで籠登お兄ちゃんと虎太郎アニキ
が執事服きてんの!?」「……お前にや関係な……。」ゴツ。「
いでっ!?」「失礼いたしました、虹空様。これには深い理由が
ございまして……長くなると思いますので、どうぞおかけくださ
いませ。」「え、ああ……はい。」

「最初に私どもは……貴方の兄上ではありません。」「……は
?……えーと……血が繋がっていなくて戸籍上兄妹……とか
?」「……前半はあたりです。私どもは……貴方様と血が繋が
つておりません。それに……戸籍上も兄妹ではありません。」「.
……つまり……。」「はい。私どもは貴方とは何の関係もない、い
え、ないわけではないのですが……赤の他人です。」「じゃあ.
・何なの?」「……私どもは……貴方様の……。」「ああもう
めんどくせー!!執事だよ!!」「は?」

ジヨウキヨウセイリチュウ……ジヨウキヨウセイリチュウ……
ピ・ピ・ピ・チーン!!!

「つええええええええええええええええええええええええ!
!!!???」

えっ!?!お兄ちゃんじゃないの!?!No.2(後書き)

にやにや。これからどうなるんでしょつかねえ……W

> (. . W) <

お兄ちゃんは執事！？（前書き）

はい、今回ちょっと説明と、トッキリはいます。

てしまつて・・・ニヤ 君は三回目でやつと合格でしたもんねえ
「三三」 「だつ・・・だまれだまれっ!! / / / (怒)」「おつ
とクチが滑つてしまいましたwニヤ。」「・・・へえ・・・執事
つて大変なんだねえ・・・」

私は素直に思った。

「・・・それはどういう意味だっ!! (怒)」「こらこら。失礼で
すよ? 新米くん。ニヤ」「! ざけんなっ!!」「シャツ。(シャツ?)
私が見ると、虎太郎さんは小型ナイフで龍登さんにきりつけていた。
「!?!」「甘いっ!!!」

龍登さんはそう言つと、フツに右によけた。ナイフは空振り。
そして虎太郎バランス崩す。そしてねじ伏せられる。「・・・くっ。
・・・」 「・・・そんなだと執事協会に戻しますよ?」「ちっ。
どうやら終わったようだ。私はオロオロと見ていたが、少し心安
心。と、龍登さんがツカツカと歩み寄つてきた。

「お怪我はありませんか?」「あ・・・はい。」「それはよろしゆ
うございまして^^すみません。見苦しいところをお見せしま
つて。」「い、いえ・・・とんでもない・・・」「そうですか。で
は貴方様のご説明をさせていただきます。」「

私は胸を高鳴らせ、姿勢を直した。

お兄ちゃんは執事！？（後書き）

はい、喧嘩します。この二人、実はいろんなライバルなんです、ハイ。では次回を乞うご期待！！<（-w-）>ノシ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1262q/>

執事服を脱がないでっ！ > <

2011年10月8日14時26分発行